

# 九州大学総合研究博物館 ニュース

*The Kyushu University Museum News*

## 九州大学総合研究博物館に期待するもの

九州大学  
総 長

梶山 千里

杉岡前総長はじめ多くの方々のご尽力で、平成12年4月に発足した九州大学総合研究博物館は、この4月から3年目の活動に入りました。設立当初は、どの組織でも直面するような様々な困難があったことと思われませんが、湯川館長や専任教官、事務職員のチームワークによって立ち上げに成功し、この2年間で多くの公開展示がなされ、資料部や協力研究員制度などの組織が確立し、学芸員資格取得のためのカリキュラムが完成したことは誠に嬉しい限りです。これも学内外の皆様方のご理解とご協力の賜と感謝申し上げます。

近年、大学による地域への貢献が様々な形で期待されています。そうした中で、大学博物館は地域に開かれた大学の窓として、その存在が大いに注目され、期待されるどころです。大学博物館による地域への貢献としてもっとも具体的な活動の一つは、学内で行われている多種多様な教育研究の内容や成果を、公開展示することです。もちろん、公開展示は学会での発表とは異なり、きわめて分かりやすく行うことが当然の条件です。それによって、地域の方々に最新の教育研究情報を提供し、その情報を総合学習や生涯教育など様々な場面で活用していただくことができます。その結果、九州大学への親しみと理解を深めていただ

けるとともに、本学の魅力を学外に大きくアピールできることとなります。

そのためには、大学博物館の呼びかけに応じて、本学の教育研究に携わる個人やグループが、規模の大小にかかわらず、あらゆる展示機会を捉えて積極的に競って成果を発表して下さることを期待しています。大学はそのような積極的な姿勢を支援していきたいと考えています。

本学の元岡地区への移転に伴い、博物館がその中心的な建物となることが予定されています。それまでに博物館が様々な経験と成果を蓄積し、完成時には、本学に収蔵されている700万点余の貴重な標本と資料を包含する、名実ともに世界的な大学博物館になることを期待しています。

## 3年目に入った九州大学総合研究博物館

九州大学総合研究博物館  
館 長

湯川 淳一

平成12年4月に発足した九州大学総合研究博物館は、この4月から3年目の活動に入りました。現在、博物館は箱崎キャンパスのいくつかの建物に分散、仮住まいしており、公開展示は記念講堂の一部や図書館、学外の施設などで行っている状態です。しかし、杉岡前総長や梶山現総長はじめ多くの方々のご尽力により、この2年間で専任教官も充実し、博物館の基本的な活動を立ち上げることができました。また、70余名の学内兼任教官

